

消 息

「宮崎医学所之跡」碑建立に就いて

平成七年四月一日、大淀川畔の一角に宮崎県医史懇話会の肝入りで、医学関係としては恐らく県内初めての記念碑「宮崎医学所之跡」碑が建立された。

高さ九五糎、横一一〇糎、白御影石を用い、中央に懇話会々員でもある宮崎医科大学学長 木下和夫先生の揮毫による宮崎医学所之跡の文字がある。

碑は三個の石で組まれているが、これは吉益南涯の言う医の三徳、智、仁、勇を意識したのだが、デザインは私田代逸郎による。

また、碑の後面に同じく田代の撰文が刻されているが、碑の、宮崎医学所の由来を尽したつもりなので、掲げることとする。

宮崎医学所は明治十二年公立宮崎病院に付属して、現宮崎市松山2（ホテルフェニックスとホテル前の道路、これに続く緑地帯を合わせた二千余坪の土地）に位置して開校された。

校長に久米維精、次いで渡辺文造の両氏が就任し、また、教授では履歴書が現存し、その中に「教授」と明記するのは萩原百々平氏一人だけである。

卒業生（在籍者）は浜田三保次、永友文吉郎、榎木郷太郎、碓井 昇、江藤円蔵、川越丑太郎、山田理一、浅田新吾、平島 侃、三宅義保、松本愛蔵、山崎蔵太、檢本成元 及び、秋月幾蔵の十四氏が判明するにすぎない。

明治十五年、医学校通則の公布、其後の経済的事情の変化などは全国的に医学校の経営、維持を困難にする。

宮崎医学所も例外ではなく、明治十八年になると、開学以来僅かに七年にして閉校の止むなきに至る。

今ここに宮崎医学所の史跡を顕彰し、この碑を建つ。
平成七年四月一日

宮崎県医史懇話会

除幕式は神事を八幡宮にお願いし、神戸十四郎先生の司会で行われ、田代武士（三歳）が除幕を行いました。

記念式典は場所をホテルフェニックス二階に移し、図師鎮静雄先生の司会により進められました。

木下和夫建立委員会委員長のごあいさつのと、福永克己 県医師会長（代）、蒲原宏日本医史学会理事長（代）、松形祐堯 宮崎県知事（代）及び、宮崎医学所関係者子孫綾部隆夫（故萩原百々平宮崎医学校教授の曾孫）の四氏からのご祝詞、ごあいさつなどを頂きました。

次いで、委員長より建立場所を無償にて提供された佐藤棟良フェニックス国際観光株式会社社長、工事担当の山元石材店社長の御二人に感謝状が贈呈され、工事の経過報告を私、田代が行いました。

記念講演会は同場所で行われ、木下和夫宮崎医科大学長が座長となられ、講師酒井シヅ順天堂大学医史学教授のご紹介がなされ「近代日本に於ける医学教育の歴史」と題したご講演を感銘深く拝聴しました。

祝賀会は田中幸稔先生によって司会されました。

意義ある記念式には是非参列したいが、遅れても宜しいだろうかと予告しておられた津村重光宮崎市長が到着され、早速丁寧なるごあいさつを頂き、乾杯の音頭もとって頂きました。酒井シヅ教授と宮崎医科大学第二病理の河野教授とは三重医大の同級生、皮膚科の井上教授とは研修生のと、御一緒だった由で、まるで私は同窓会みたいですよと酒井教授は喜んでおられました。

この宮崎医学所のことは昭和四十二年宮崎市郡医師会史編さん途中から着目し、昭和五十九年宮崎県医史完成のとき、更に同年の宮崎市で行われた第七十九回日本医史学会学術集会で一部を発表するなど、私の永い永い追跡テーマであったのですが、一応の決着をみる事が出来ました。

建立に関しては、県内在住の医師を対象に行いましたところ、二ヶ月余りで予想を越える四百万円近い醸出を頂きました。

諸経費を差引き、百万円位の剰余金が出ました。この残金で「日向に於ける人体解剖最初之地」碑(仮称)を建立するとの賛同を得たところです。

(田代 逸郎)

入澤記念庭園の整備事業を終えて

第八十九回日本医史学会総会が新潟市で開催された折(昭和63年)、会員の方々が当町の西野の入澤邸を訪問されました。

当時、当主は転居され居宅はかなり荒れており、入澤家生家保存の声があがったのはこの頃でありました。なんらかの形で生家の面影を残そうと、町の有志が入澤家顕彰事業実行委員会をつくり、生家の整備事業を行うこととなりました。

中之島町と実行委員会がそれぞれの分担をきめ、総称して「入澤記念庭園」の整備事業ということになりました。

A、中之島町による整備事業

○入澤記念庭園の整地(約八〇〇坪)

○土蔵の修復

○造園と植樹

○東屋とお手洗の新設

(町支出の総整備費約三、二〇〇万円)

B、顕彰事業実行委員会による整備事業

庭園シンボルモニュメントの建立